

### 関西の8大学とWHOがタッグ

高年齢問題を研究

医学部を持つ関西の公立私立8大学と、世界保健機関（WHO）の健康開発総合研究センター（神戸センター）が5日、高年齢問題を扱う保健医療政策共同研究ワーキンググループ

を発足させた。

高年齢化社会における住宅や健康に配慮した町づくり、食育などをテーマに、数年内に論文で成果を発表する予定。

8大学は府立医大、大阪市立大、大阪医大、関西医大、近畿大、兵庫医大、奈良県立医大、和歌山県立医大。主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）の関連会合として、神戸市で今月11日から開催されるG7保健相会合に向け、高年齢化について国際貢献をしようとした。代表の府立医大の吉川敏一学長は記者会見で「各大学の得意分野を生かし、具体的なか

とは相談して決めていきたい」と話した。

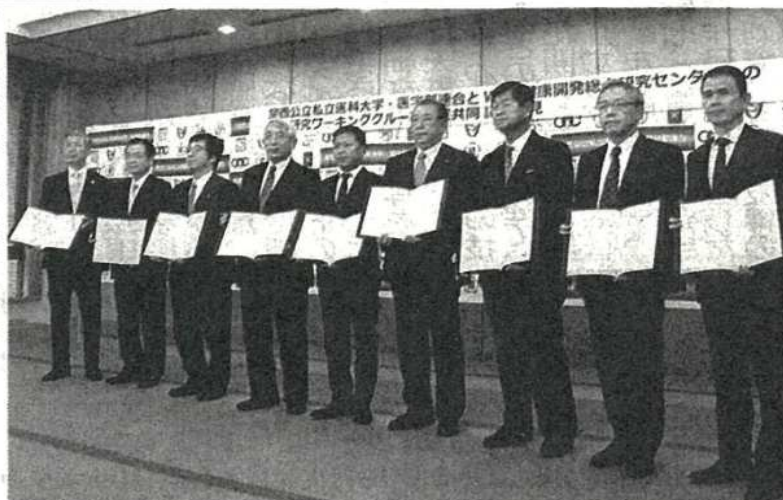
### 関西の8大学とWHOがタッグ

高年齢問題を研究

医学部を持つ関西の公立私立8大学と、世界保健機関（WHO）の健康開発総合研究センター（神戸センター）が5日、高年齢問題を扱う保健医療政策共同研究ワーキンググループを発足させた。

高年齢化社会における住宅や健康に配慮した町づくり、食育などをテーマに、数年内に論文で成果を発表する予定。

8大学は府立医大、大阪市立大、大阪医大、関西医大、近畿大、兵庫医大、奈良県立医大、和歌山県立医大。主要国



共同研究ワーキンググループ発足について記者会見した関西8大学の学長ら  
＝京都市で

首脳会議（伊勢志摩サミット）の関連会合として、神戸市で今月11日から開催されるG7保健相会合に向け、高年齢化について国際貢献をしようとした。

代表の府立医大の吉川敏一学長は記者会見で「各大学の得意分野を生かし、具体的なかとは相談して決めていきたい」と話した。

合意文書を交わした関西8大学の学長や医学部長ら



## 「高齢社会」でWHOと共同研究へ

府立医科大など関西8大学が合意

京都府立医科大（京都市上京区）をはじめ、関西にある8つの公立・私立の医科系大学は、国連の世界保健機関（WHO）神戸センター（神戸市）との間で「高齢社会」をテーマにした共同研究を始めることで合意したと発表した。関西から高齢社会に役立つ解決策を世界へ発信する。

具体的には、8大学の研究者らが参加し、住居・まちづくり▷機器類▷食育や口腔ケア▷ビッグデータ活用

を行うワーキンググループ（WG）を年内に発足させる。

共同研究を進めることで、大学側はWHOからの資金を使い、世の中に役立つ研究を行える実績づくりにつながる。

一方、WHO側も関西の各大学と連携強化し、先進的な研究成果が得られることに期待する。

京都市内で記者会見した京都府立医科大の吉川敏一学長は、「世界の中で、日本は高齢社会のトップラン

ナー。健康寿命の研究など、関西での成果を世界へ発信していきたい」と話した。

今回の共同研究に参加するのは、京都府立医科大のほか、関西医科大（大阪府枚方市）▷奈良県立医科大（奈良県橿原市）▷大阪市立大医学部（大阪市阿倍野区）▷和歌山県立医科大（和歌山市）▷大阪医科大（大阪府高槻市）▷兵庫医科大（兵庫県西宮市）▷近畿大医学部（大阪府大阪狭山市）一の計8大学。